

郷土摂津

第68号

平成15年12月1日

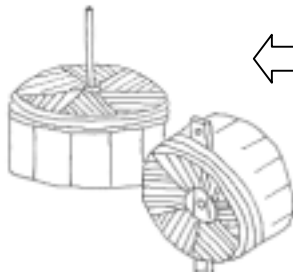
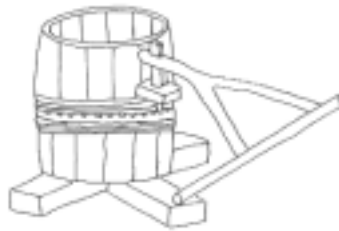
いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

土臼の重さは80~90kgあり重くて厄介だったようです。摂津市の所蔵品にありません。



土臼をはずして摺り面を見せた図です。カシの木の歯を打ち込んでいたようです

農具 春夏秋冬 第9回

から見た 秋冬 土臼

脱穀した籾(もみ)は、むしろに広げて数日の間干しました。乾いた籾は土臼にかけて、籾殻をすりむくようにして、米粒(玄米)を取り出しました。この作業を籾摺(もみすり)といいます。土臼の他に編み籠や木をくり抜いたものもあります。土臼は江戸時代初期の三河地方の農書『百姓伝記』に記述が見られます。土臼の普及でそれまでの木臼がすたれたようです。その後、発動機屋が機械をもって回るようになり、土臼もすたれます。発動機屋は2時間程度で仕上げたようです。機械化してもウスヒキヤと呼ばれていました。

聞き取り調査より トウスと聞きました。11月から12月、乾燥できたものからひきました。12月にお寺で永代経が勤まる頃にはウスヒキは終わっていました。(千里丘)

12月のふるさと摂津講座

摂津市内の力石
摂津市と鉄道の歴史

講師 ふるさと摂津案内人
林健三氏
真木恭二氏・真木安子氏

とき 平成15年12月17日(水)
午後2時~4時

ところ 総合福祉会館・第1会議室

入場料 無料

定員 60名

講座は申し込み不要です。当日直接会場へご来場ください。

おおさかふみんネットが開催されました

11月26日、絶好の秋晴れの中、生涯学習広域連携事業おおさかふみんネットが開催されました。三島地区4市1町で「我が町~くらしと産業」をテーマにした連続講座です。本市の演題は「力石と若者」。講座は講師・司会・受付・記録のすべてをふるさと摂津案内人に務めていただきました。司会の名調子のなか、ビデオ上映、力石かつぎの実演、摂津市内の力士墓、力石の実物展示と和やかで、バラエティに富んだ講演となりました。



実演中

石碑・顕彰札の紹介

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市一津屋1丁目6-3

【設置年度】平成15年度改修

恵照院殿釈寿栄大童女の墓碑と鐘楼

元禄13年(1700)6月、松平縫殿頭乗成が大坂城へ赴く途中に息女の急逝にあい、役地でもあった一津屋の誓源寺へ葬りました。そして恵照院殿釈寿栄大童女(けいしょういんでんしゃくじゅえいだいどうじょ)の墓碑を建て、菩提寺として丁重にとむらいました。その墓碑が現存しています。

また、宝暦2年(1752)菩提供養のため、松平家より藤原国次銘の梵鐘(ぼんしょう)と袴腰付鐘楼(はかまこしつきしょうろう)が寄進されました。梵鐘は第2次世界大戦中に供出され現存しませんが、鐘楼は当時のものです。この袴腰付の鐘楼は格式が高く、大阪府下でも数少ない貴重なものです。

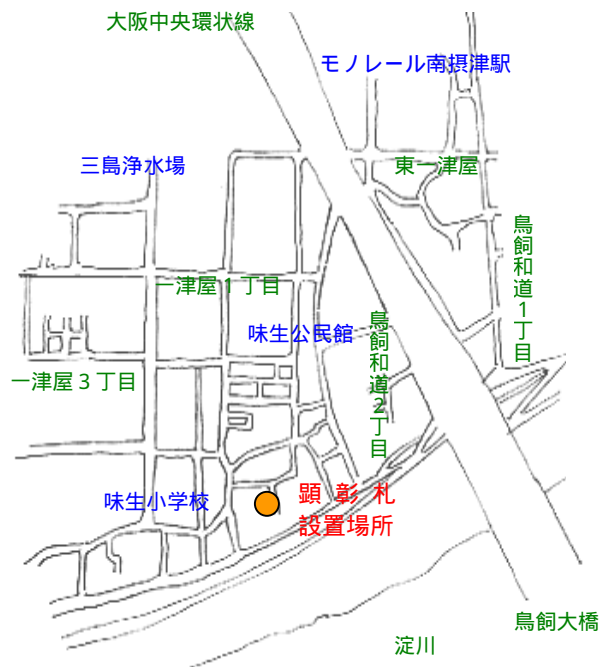


顕彰札



袴腰付鐘楼

墓碑



第32回 埋もれた摂津市の歴史

摂津市から須恵器が出土(4)



これまで紹介しました旧味舌村から採集された須恵器の特徴は、焼成が強すぎたり弱すぎたりといった不良品が多いことです。第29号で紹介しました蓋(ふた)付の高坏は蓋と身がくっついていて、第30号で紹介しました提瓶は焼成が不十分で本来の用途である水筒としての機能を有していません。先月号で紹介しました横瓶もひび割れが激しく本来の用途である水や酒を貯蔵する機能を有していません。このような不良品がたくさん採集されるという事は、一体どのような意味があるのでしょうか。(つづく)